

ものづくりの楽しさ・大切さを 未来へ繋ぐ

～工業の活性化で市勢に活気を！～

松本機械金属工業会 会長

2009まつもと広域工業ものづくりフェア運営委員長 藤森 秀一さん

インタビュー：中村美由紀

ものづくりの楽しさ・大切さを「見る」「知る」「体験する」。“2009まつもと広域工業ものづくりフェア”が今年も9月26日（土）27日（日）に、松本臨空工業団地を拠点に開催されます。運営委員会委員長を務める、松本機械金属工業会 藤森秀一会長に、イベントの概要とそこに込める想いを伺いました。

10年の歴史の中に流れる コンセプト

中村：藤森会長おはようございます。今年も、子供たちが楽しみにしている「工業まつり」が、この松本臨空工業団地を中心に開催されますね。見どころや運営委員会の皆さまの願いを伺いにまいりました。よろしくをお願いします。

藤森：こちらこそよろしく申し上げます。時代や経済の流れとともに、年々少しずつ様式を進化させている当イベントも、今年で10回目の節目を迎えることとなりました。松本市、松本商工会議所、松本機械金属工業会が中心となり、石川島芝浦機械（現IHIシバウラ）の工場敷地内で第1回目の開催を

迎えたのが2000年のこと。以来、塩尻市、安曇野市をはじめ両市の関係団体や、松本地方事務所にも参画いただき、地域工業の一大イベントへと成長しています。そして、地域経済における製造業の重要性を認識する中、ものづくりに関わる人材育成・人材開発を進めることが、我々の任務と踏まえ、今年のタイトルは「2009まつもと広域工業ものづくりフェア」と決めました。小中学生や高校生の中から、将来当地域の製造業を担う人材が輩出できるよう、子供たちにもものづくりの楽しさ・感動が体感できる場の提供を目指しています。

中村：なるほど…私も初回からMCとして関わらせていただいているのですが、出展される松本広域圏の企業や団体の持つ高い技術力に毎回驚きを覚えると同時に、子供たちがものづくりの面白さを身近に感じることの出来るありがたい催しだと、親の立場としても楽しみにしていました。娘のお友達家族など周囲にもリピータが沢山います。

藤森：そうですね。嬉しいことです。私自身も、体験コーナーで子供たちが作品を作っている時の顔を眺めるのが楽しみです。作る喜



ふじもり・しゅういち

昭和28年生まれ。昭和52年カンリウ工業(株)入社。昭和60年に代表取締役役に就任後、現在に至る。昭和60年より当所議員。平成20年より松本機械金属工業会会長、今回開催のまつもと広域工業ものづくりフェアで運営委員長を務める。

びを見つけた瞬間の表情・・・それが励みとなり、またこの事業を続けることが出来ます。

中村：会長も体験コーナーにいらっしゃるのですか？毎回、機械金属工業会青年部の皆さんが、様々な工夫を凝らして、材料や工具を揃え、当日の製作指導もしていらっしゃいますよね。ブックエンドやネジロボット…私もいろいろ持っています！

藤森：私も初めの頃は青年部のメンバーでした（笑）。ブースで組立をしていましたよ。現在彼らは仕事の合間を縫って、このイベントに使う材料を集め、準備を整えています。これまで重ねた開催では、地元にて存在する企業が、それぞれの存在や技術を知ってもらう場と、未来を担う人材を育成する場を提供するという2つを主な目的としてきました。本年は「人材育成」により重心を移した開催となりますが、子供たちに「ものづくりの楽しさ」を伝えるメッセージ、この基本コンセプトは当初からずっと流れており、青年部共々大切に引き継いでいます。

今年の見どころとその先にあるもの

中村：今回の具体的なPRをお願いします。

藤森：例年大盛況のものづくり体験コーナーや科学実験コーナー。サテライト会場であるアイシティー21でのサイエンスショー。ステージでは最先端技術を駆使したロボットショーが行われます。2009年ロボカップジュニア世界大会団体戦3位入賞の長野高専「サッカーロボット」や職業能力開発総合大



「昨年のものでづくり体験コーナーの様子」

学校東京校のロボットも来場します。

中村：学生さんたちも沢山参加されるようですね。

藤森：松本工業高校・池田工業高校・東京都市大学塩尻高校や、長野高専、信州大学理学部からも多大なご協力を頂いています。また、現在このフェアとも並行しながら、ものづくり人材育成を目的に、地元工業高校と工業界の連携強化をすすめております。先日も、青年部のメンバーと同世代の先生方とが、情報交換会を行いました。さらに、インターンシップを含め、学校

からの人材教育の支援要請に対応するなど交流を深めています。2012年に開催を迎える技能五輪全国大会（松本市・諏訪市）やアビリンピック（長野市）を見据えつつ、未来の工業人育成が我々のミッションだと考えます。工業会を組織する各企業も決して余裕がある時代ではありませんが…だからこそ、崇高な精神を持った、我々の先輩方が作り上げてきた工業会の伝統を未来へと繋げていきたいのです。

中村：今回のフェアでは、その技能五輪と匠の技をPRするコーナーや、各校の取組事例を紹介する産学官連携コーナー、ものづくり企



業による講演会なども予定されていますが、会場となるこの臨空工業団地は、今回で3回目の開催会場ですね。

藤森：そうです。第2回目と昨年です。松本市内最大であるこの臨空工業団地には約70の企業が立地し、松本IC塩尻北ICからのアクセスも良く、信州まつもと空港にもほど近い恵まれた環境です。イベント会場となる体育館や駐車場、近隣には大型商業施設もあります。なにより管理組合の多大な尽力のおかげで、今年も無事開催がかなうことに感謝をしています。

中村：イベント当日は、信州まつもと空港でも催しがあるそうですか…

藤森：9月20日の「空の日」にちなんだ、スカイフェスティバルin松本が27日（日）に開催されます。日曜日は会場間の連携を図り、シャトルバスの乗り入れ運行も行われます。一緒になって盛り上げていきたいですね。

商業と工業の両輪で地域経済を支える

中村：最後に、松本広域における工業が担う役割についてお聞かせください。

藤森：松本は、商業都市というイメージが強いですが、実は商業と工業の両輪で地域経済を支えているのです。また、製造業は広範な

市場を対象としていることから、主要な外貨の稼ぎ手でもあります。我々工業人が、厳しい経営環境の現状を認識し、経営の改善・改革を図り、工業の活性化を進めることが市勢に活気を生む。昨年度掲げた工業ビジョンに基づき、5年後10年後の目標値・期待値に向けて各社前向きに進むのみです。現在、工業活性化のための支援体制も整いつつあり、いま取材を受けている「まつもと工業支援センター」もこの春に開設され、行政や商工会議所、支援団体が主体となり、工業関係者への様々な情報やサービスを提供してくれています。

中村：藤森会長ありがとうございました。今日のお話を聞き、益々イベントが楽しみになりました。当日は会場内の情報を正しくお伝えしながら、ものづくりの楽しさ・大切さを「見る」「知る」「体験する」お手伝いをさせていただきますね。早く子供たちの笑顔に逢いたいです。

藤森・中村：2009松本広域工業ものづくりフェアへのご来場お待ちしております。

なかむら・みゆき

各種イベント・式典・ブライダル等のMC。個別対応と地域に根ざした仕事を心がけ、信州まつもとの新たな発見を発信すべく日々活躍中。



「今年やってくる2mのロボット！」